

1

解答解説のページへ

$f(x) = 1 - \cos x - x \sin x$ とする。

- (1) $0 < x < \pi$ において、 $f(x) = 0$ は唯一の解をもつことを示せ。
- (2) $J = \int_0^{\pi} |f(x)| dx$ とする。(1)の唯一の解を α とするとき、 J を $\sin \alpha$ の式で表せ。
- (3) (2)で定義された J と $\sqrt{2}$ の大小を比較せよ。

2

解答解説のページへ

a を正の整数とする。正の実数 x についての方程式

$$(*) \quad x = \left[\frac{1}{2} \left(x + \frac{a}{x} \right) \right]$$

が解をもたないような a を小さい順に並べたものを a_1, a_2, a_3, \dots とする。ここに $[\]$ はガウス記号で、実数 u に対し、 $[u]$ は u 以下の最大の整数を表す。

(1) $a = 7, 8, 9$ の各々について $(*)$ の解があるかどうかを判定し、ある場合は解 x を求めよ。

(2) a_1, a_2 を求めよ。

(3) $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{a_n}$ を求めよ。

3

解答解説のページへ

1 から n までの数字がもれなく一つずつ書かれた n 枚のカードの束から同時に 2 枚のカードを引く。このとき、引いたカードの数字のうち小さい方が 3 の倍数である確率を $p(n)$ とする。

- (1) $p(8)$ を求めよ。
- (2) 正の整数 k に対し、 $p(3k+2)$ を k で表せ。

4

解答解説のページへ

a を正の定数とする。原点を O とする座標平面上に定点 $A = A(a, 0)$ と、 A と異なる動点 $P = P(x, y)$ をとる。次の条件

$$A \text{ から } P \text{ に向けた半直線上の点 } Q \text{ に対し, } \frac{AQ}{AP} \leq 2 \text{ ならば } \frac{QP}{OQ} \leq \frac{AP}{OA}$$

を満たす P からなる領域を D とする。 D を図示せよ。

1

問題のページへ

(1) $f(x) = 1 - \cos x - x \sin x$ に対して,

$$f'(x) = \sin x - \sin x - x \cos x = -x \cos x$$

$0 < x < \pi$ において, $f(x)$ の増減は右表のようになり, $f(x) = 0$ は唯一の解をもつ。

x	0	...	$\frac{\pi}{2}$...	π
$f'(x)$	0	-	0	+	
$f(x)$	0	↘		↗	2

(2) $f(x) = 0$ の解を $x = \alpha$ とすると, $1 - \cos \alpha = \alpha \sin \alpha \cdots \cdots (*)$

$$J = \int_0^{\pi} |f(x)| dx = \int_0^{\alpha} -f(x) dx + \int_{\alpha}^{\pi} f(x) dx$$

ここで, $F(x) = \int f(x) dx$ とおくと,

$$\begin{aligned} F(x) &= \int (1 - \cos x - x \sin x) dx = x - \sin x + x \cos x - \int \cos x dx \\ &= x - 2 \sin x + x \cos x + C \end{aligned}$$

よって, (*) を用いると,

$$\begin{aligned} J &= -[F(x)]_0^{\alpha} + [F(x)]_{\alpha}^{\pi} = F(0) + F(\pi) - 2F(\alpha) \\ &= -2\alpha + 4 \sin \alpha - 2\alpha \cos \alpha = -2 \cdot \frac{1 - \cos \alpha}{\sin \alpha} (1 + \cos \alpha) + 4 \sin \alpha \\ &= -2 \cdot \frac{\sin^2 \alpha}{\sin \alpha} + 4 \sin \alpha = 2 \sin \alpha \end{aligned}$$

(3) (1) より, $\frac{\pi}{2} < \alpha < \pi$ であるが,

$$f\left(\frac{3}{4}\pi\right) = 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{3}{4}\pi \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{2}}{2} \left(\sqrt{2} + 1 - \frac{3}{4}\pi \right) > \frac{\sqrt{2}}{2} \left(1.4 + 1 - \frac{3}{4} \times 3.2 \right) = 0$$

これより, $\frac{\pi}{2} < \alpha < \frac{3}{4}\pi$ となり,

$$J = 2 \sin \alpha > 2 \sin \frac{3}{4}\pi = \sqrt{2}$$

[解説]

微積分の標準的な問題です。誘導も細かく付けられています。

2

問題のページへ

(1) x を正の実数として, $x = \left[\frac{1}{2} \left(x + \frac{a}{x} \right) \right] \cdots \cdots (*)$ が解をもつ条件は,

$$x \leq \frac{1}{2} \left(x + \frac{a}{x} \right) < x+1 \quad (x \text{ は正の整数}) \cdots \cdots \textcircled{1}$$

①より, $2x^2 \leq x^2 + a$ から, $x \leq \sqrt{a}$

また, $x^2 + a < 2x^2 + 2x$ から $x^2 + 2x - a > 0$ となり, $x > \sqrt{a+1} - 1$ より, ①は,

$$\sqrt{a+1} - 1 < x \leq \sqrt{a} \quad (x \text{ は正の整数}) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$a=7$ のとき, ②から $\sqrt{8} - 1 < x \leq \sqrt{7}$ となり, 解は $x=2$

$a=8$ のとき, ②から $3 - 1 < x \leq \sqrt{8}$ となり, 解なし

$a=9$ のとき, ②から $\sqrt{10} - 1 < x \leq 3$ となり, 解は $x=3$

(2) $a=1$ のとき, ②から $\sqrt{2} - 1 < x \leq 1$ となり, 解は $x=1$

$a=2$ のとき, ②から $\sqrt{3} - 1 < x \leq \sqrt{2}$ となり, 解は $x=1$

$a=3$ のとき, ②から $2 - 1 < x \leq \sqrt{3}$ となり, 解なし

$a=4$ のとき, ②から $\sqrt{5} - 1 < x \leq 2$ となり, 解は $x=2$

$a=5$ のとき, ②から $\sqrt{6} - 1 < x \leq \sqrt{5}$ となり, 解は $x=2$

$a=6$ のとき, ②から $\sqrt{7} - 1 < x \leq \sqrt{6}$ となり, 解は $x=2$

そこで, (1)の結果と合わせると, $(*)$ が解をもたないのは, $a=3, 8, \dots$ となり,

$$a_1 = 3, a_2 = 8$$

(3) まず, n を正の整数として,

(i) $n^2 \leq a < (n+1)^2 - 1$ ($n \leq \sqrt{a}$ かつ $\sqrt{a+1} - 1 < n$) のとき

②の整数解は, $x=n$ である。

(ii) $a = (n+1)^2 - 1$ のとき

②に代入すると, $n < x \leq \sqrt{(n+1)^2 - 1} \cdots \cdots \textcircled{3}$

ここで, $\sqrt{(n+1)^2 - 1} - n = \frac{2n}{\sqrt{n^2 + 2n + n}} < \frac{2n}{n+n} = 1$ から, ③は整数解をもたない。

(i)(ii)より, $a_n = (n+1)^2 - 1 = n(n+2)$ となり,

$$\begin{aligned} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{a_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k} = \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{1}{k(k+2)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left(\frac{1}{1} + \frac{1}{2} - \frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2} \right) = \frac{3}{4} \end{aligned}$$

[解説]

ガウス記号を題材としたおもしろい問題です。初めに考えた通りを記述しましたので, (2)は冗長な解答例となっています。

3

問題のページへ

(1) 8枚のカードから2枚のカードを引く ${}_8C_2$ 通りの場合が同様に確からしいとする。

さて、引いたカードの数字の小さい方が3となる確率は $\frac{{}_5C_1}{{}_8C_2} = \frac{5}{28}$ ，小さい方が6

となる確率は $\frac{{}_2C_1}{{}_8C_2} = \frac{2}{28}$ であるので、

$$p(8) = \frac{5}{28} + \frac{2}{28} = \frac{1}{4}$$

(2) $3k+2$ 枚のカードから2枚のカードを引く ${}_{3k+2}C_2$ 通りの場合が同様に確からしいとする。

さて、引いたカードの数字の小さい方が $3l$ ($l=1, 2, \dots, k$) となる確率は、

$$\frac{{}_{3k+2-3l}C_1}{{}_{3k+2}C_2} = \frac{2(3k+2-3l)}{(3k+2)(3k+1)}$$

$l=1, 2, \dots, k$ の和をとると、

$$p(3k+2) = \sum_{l=1}^k \frac{2(3k+2-3l)}{(3k+2)(3k+1)} = \frac{2}{(3k+2)(3k+1)} \cdot \frac{(3k-1)+2}{2} \cdot k = \frac{k}{3k+2}$$

[解説]

不思議なぐらい基本的な問題です。なお、(2)の和は、シグマの公式でなく、等差数列の和として計算しています。

4

問題のページへ

半直線 AP 上の点 Q に対し、 $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$ とおく。

すると、 $\frac{AQ}{AP} \leq 2$ より、 $P(x, y) \neq A(a, 0)$ のもとで、

$$0 \leq t \leq 2$$

このとき、 $\overrightarrow{QP} = \overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AQ} = (1-t)\overrightarrow{AP}$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AP} = (a+t(x-a), ty) \\ &= (a(1-t)+tx, ty) \end{aligned}$$

さて、 $\frac{QP}{OQ} \leq \frac{AP}{OA}$ より、 $\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AP} \neq \vec{0}$ ……①のもとで、

$$OA \cdot QP \leq OQ \cdot AP \dots\dots\dots ②$$

①から、 $\overrightarrow{AO} \neq t\overrightarrow{AP}$ となり、 $\overrightarrow{AO} \neq \vec{0}$ から $0 < t \leq 2$ で、 $\overrightarrow{AP} \neq \frac{1}{t}\overrightarrow{AO}$

すると、 $\frac{1}{t} \geq \frac{1}{2}$ から、 $P(x, y)$ は、 x 軸上の $x \leq \frac{a}{2}$ の部分には存在しない。

また、②から、 $a|1-t||\overrightarrow{AP}| \leq |\overrightarrow{OQ}||\overrightarrow{AP}|$ 、 $a^2(1-t)^2 \leq |\overrightarrow{OQ}|^2$ となり、

$$a^2(1-t)^2 \leq \{a(1-t)+tx\}^2 + t^2y^2, (x^2+y^2-2ax)t^2+2ax \geq 0 \dots\dots\dots ③$$

③は、 $t=0$ では成立しているので、 $0 < t \leq 2$ でつねに成立する条件を求める。

そこで、 $0 < t \leq 2$ において、③は、

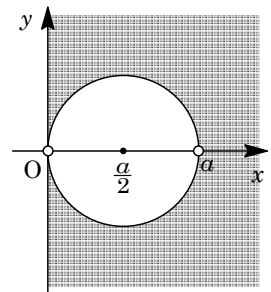
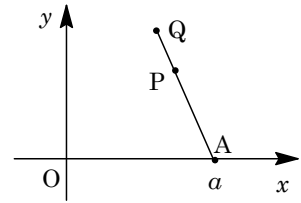
$$(x^2+y^2-2ax)t+2ax \geq 0$$

$f(t) = (x^2+y^2-2ax)t+2ax$ とおくと、求める条件は、

$$f(0) = 2ax \geq 0, f(2) = 2x^2+2y^2-2ax \geq 0$$

まとめると、 $x \geq 0$ かつ $(x-\frac{a}{2})^2 + y^2 \geq \frac{a^2}{4}$

よって、条件を満たす点 $P(x, y)$ の存在領域 D は、右図の網点部となる。ただし、白丸以外の境界は領域に含む。



[解説]

問題文に与えられた条件が比の形で書かれているため、取り組みにくい感じがします。なお、点 Q はこの条件を満たす任意の点として解答をしています。